

事例16

< 事例概要 >

出血

- ① 60 歳代、多発性骨髄腫、腸閉塞術後の患者。
- ② 末梢血幹細胞採取のため、留置中の中心静脈カテーテルを血液浄化用カテーテルへ入れ替え予定。
- ③ BMI 18.3 kg/m²。幹細胞採取ため抗血栓薬を使用。
- ④ 左鎖骨下静脈へ超音波を使用せず血液浄化用カテーテルに入れ替えを試みたが、逆血なし。新たに左鎖骨上窩から血液浄化用カテーテルを挿入したが、逆血なし。カテーテルを抜去したところ経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）70 % に低下。X線で左肺野の透過性低下とガイドワイヤーの胸腔内迷入があり抜去。新たに右大腿静脈から血液浄化用カテーテルを挿入したが、末梢血幹細胞採取中に血圧低下、痙攣をきたし心肺停止。穿刺から約7 時間後に死亡。
- ⑤ 死因は、血管損傷（部位不明）による胸腔内および傍腎腔の多量の出血。死亡時画像診断（Ai）有、解剖無。